

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3149351号
(U3149351)

(45) 発行日 平成21年3月26日 (2009. 3. 26)

(24) 登録日 平成21年3月4日 (2009. 3. 4)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 85/20 (2006. 01)

B 6 5 D 85/20

C

A 4 7 G 21/00 (2006. 01)

A 4 7 G 21/00

P

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-8770 (U2008-8770)
(22) 出願日 平成20年12月15日 (2008. 12. 15)(73) 実用新案権者 500364125
ライフ・ワークス株式会社
大阪府大阪市中央区安土町一丁目7番20
号 新トヤマビル6階
(74) 代理人 100059225
弁理士 蔦田 璋子
(74) 代理人 100076314
弁理士 蔦田 正人
(72) 考案者 山本 幸子
大阪府大阪市中央区安土町一丁目7番20
号新トヤマビル6階 ライフ・ワークス株
式会社内

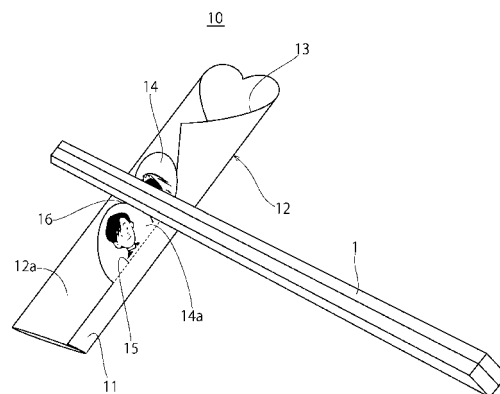
(54) 【考案の名称】 箸袋

(57) 【要約】

【課題】簡単な操作で箸置きに変形させることができ、搬送時に嵩張ることなく搬送効率に優れるとともに取り扱いやすい箸袋を提供する。

【解決手段】箸 1 を収納する箸袋本体 1 2 と、箸袋本体 1 2 の表面 1 2 a に設けられ箸袋本体 1 2 から離隔するように折り曲げ可能に設けられた起立片 1 4 と、を備える。搬送時などでは起立片 1 4 を箸袋本体 1 2 に沿わせ略偏平形状とし、箸袋 1 0 を箸置きとして使用する時には起立片 1 4 を箸袋本体 1 2 から離隔するように折り曲げ箸袋本体 1 2 に対して立設する。

【選択図】 図 3



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

箸を収納する箸袋本体と、前記箸袋本体の表面に設けられ前記箸袋本体から離隔するように折り曲げ可能に設けられた起立片と、を備えることを特徴とする箸袋。

【請求項 2】

前記起立片が前記箸袋本体に連続して一体に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の箸袋。

【請求項 3】

前記起立片は、先端側の幅方向中央部に付け根に向けて窪む凹部を備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の箸袋。

【請求項 4】

前記起立片の表面及び裏面の少なくとも一方が表示面をなしていることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の箸袋。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、箸を収納する箸袋に関し、特に、箸置きとしての機能を備えた箸袋に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、飲食店などでは、洗浄の手間を省きつつ衛生を維持するため、割り箸などの使い捨て箸が用いられる場合がある。このような使い捨て箸は、通常、紙製の使い捨て袋に收容されており、食事をする際には袋より取り出されて使用される。

【0003】

一方、食事中に一時的に箸を使用しない時に、テーブルに箸を直接置くと衛生上好ましくないため、箸を椀や皿の上に置くことが考えられるが、食事のマナーとして好ましくないことである。そこで、陶器製などの専用の箸置きを用いることも考えられるが、使用するたびに箸置きを洗う必要があり手間がかかる問題がある。

【0004】

そこで、例えば、下記特許文献 1 には、使い捨ての箸袋を使用者が加工して箸置きにできるように構成した箸袋が開示されている。

【0005】

また、下記特許文献 2 には、箸を収納する偏平袋状の収納部の外縁部を箸の収納方向に沿って折り曲げてなる箸袋が開示されている。

【0006】

しかしながら、下記特許文献 1 では、加工の工程が煩雑であり両手を使って加工しなければならず、加工中は箸を別の場所に置いておかなければならないという問題がある。

【0007】

また、下記特許文献 2 では、使用者が箸置きに加工する必要があるため上記のような問題はないが、収納部の外縁部を折り曲げた箸袋自体に厚みがある立体的な形状をなしており嵩張るため搬送効率が悪いとともに、立体的な形状が壊れやすく取り扱いが煩わしいという問題がある。

【特許文献 1】特開 2005 - 104529 号公報**【特許文献 2】特開 2005 - 289394 号公報****【考案の開示】****【考案が解決しようとする課題】****【0008】**

本考案は、上記の問題に鑑みてなされたものであり、簡単な操作で箸置きに変形させることができ、搬送時に嵩張ることなく搬送効率に優れるとともに取り扱いやすい箸袋を提供することを目的とする。

10

20

30

40

50

【課題を解決するための手段】

【0009】

本考案の箬袋は、箬を収納する箬袋本体と、前記箬袋本体の表面に設けられ前記箬袋本体から離隔するように折り曲げ可能に設けられた起立片と、を備えることを特徴とする。

【0010】

本考案の箬袋では、使用者が起立片を箬袋本体から離隔するように折り曲げるといった簡単な操作によって起立片を箬袋本体に対して立ち上げることができ、その起立片に箬の先端部を置くことで箬置きとして利用することができる。しかも、起立片を箬袋本体の表面に沿わせて箬袋を略偏平形状の状態で搬送することができるため、搬送効率に優れるとともに取り扱いやすい。

10

【0011】

上記した本考案において前記起立片が前記箬袋本体に連続して一体に設けられてもよく、これにより、箬袋本体の形成と同時に起立片を設けることができ、製造工数を削減し製造コストを抑えることができる。

【0012】

また上記した本考案において前記起立片は、先端側の幅方向中央部に付け根に向けて窪む凹部を備えてもよく、これにより、該凹部に箬の先端を置くことにより安定して箬を保持することができる。

【0013】

また、上記した本考案において前記起立片の表面及び裏面の少なくとも一方が表示面をなしてもよい。これにより、箬袋をテーブルなどに置いて箬置きとして利用する時に、起立片を構成する表示面がテーブル面に対して立設されることとなり、箬を使用する者やその周りの者に表示面に表された表示内容を効果的に伝達することができる。

20

【考案の効果】

【0014】

本考案の箬袋であると、簡単な操作で箬置きに変形させることができ、搬送時に嵩張ることなく搬送効率に優れるとともに取り扱いやすい。

【考案を実施するための最良の形態】

【0015】

以下、本考案の一実施形態を、図面に示す実施例に基づいて説明する。

30

【0016】

図1、2は本考案の一実施形態に係る箬袋10を示す斜視図、図3は箬袋10を箬置きとして使用中の状態を示す斜視図、図4は箬袋10の展開図である。

【0017】

本実施形態の箬袋10は、図1、2に示すように、箬1の少なくとも一部をその長手方向に沿って収納する箬袋本体12と、箬袋本体12の表面に配設された起立片14と、を備える。

【0018】

箬袋本体12は、紙などのシート状部材を偏平な細長筒状に折り曲げられて形成され、表面側に相当する一方向12aに設けられた貼り合わせ部11において、糊付けなどにより貼り合わせられ固定されている。箬袋本体12の一端部は糊付けなどにより貼り合わせられ閉塞されており、他端部には内部と連通する開口部13が形成されており、この開口部13から方向Aに沿って箬1が箬袋本体12内に挿入されるようになっている。

40

【0019】

起立片14は、貼り合わせ部11の端部より箬袋本体12の一方面12aに沿って延設されている。この起立片14は、箬袋本体12の一方面12aと貼り合わせられておらず、貼り合わせ部11との境界線15を付け根として折り曲げ可能に設けられている。

【0020】

起立片14の先端部、すなわち、境界線15と対向する端部には、箬1の挿入方向Aに相当する幅方向の中央部に境界線15に向けて窪む凹部16が形成されている。また、起

50

立片 14 の表面 14 a は、文字やイラストや写真などが表示された表示面をなしている。

【0021】

このような箸袋 10 では、起立片 14 と貼り合わせ部 11 との境界線 15 を折り目に谷折り状に起立片 14 を折り曲げることで、図 2 に示すように、境界線 15 を付け根として、起立片 14 を箸袋本体 12 の一方面 12 a から離隔するように折り曲げ、箸袋本体 12 の一方面 12 a に対して立設する。

【0022】

そして、起立片 14 が箸袋本体 12 に対して立設した状態で、図 3 に示すように、起立片 14 の先端部に形成された凹部 16 に箸 1 の先端部を置くことで、箸袋 10 を箸置きとして利用することができる。

10

【0023】

上記のような箸袋 10 は、図 4 に示すように、箸袋本体 12 と、この箸袋本体 12 の一方側と一体に連なった起立片 14 と、からなる 1 枚の型紙から形成される。

【0024】

箸袋本体 12 には、箸 1 の挿入方向 A に沿った両側端部に一对の貼り合わせ部 11, 11 が設けられ、貼り合わせ部 11, 11 の間において挿入方向 A に沿う一对の折り返し線 17, 17 が設けられている。一方の貼り合わせ部 11 の側端からは起立片 14 が挿入方向 A と垂直をなす外方へ延設している。

【0025】

箸袋本体 12 は、一对の折り返し線 17, 17 で折り返され、起立片 14 が一体に延設された一方の貼り合わせ部 11 を外側に配置し、他方の貼り合わせ部 11 を内側に配置して一对の貼り合わせ部 11, 11 を重ね合わせて糊付けなどにより貼り合わせることで、貼り合わせ部 11 と折り返し線 17 に挟まれた領域を箸袋本体 12 の表面に相当する一方面 12 a とし、一对の折り返し線 17, 17 に挟まれた領域を一方面 12 a と対向する他方面 12 b とする偏平な細長筒状に形成される。なお、起立片 14 は、箸袋本体 12 に貼り付けられておらず、貼り合わせ部 11 との境界線 15 を付け根として折り曲げ可能となっている。

20

【0026】

そして、偏平な細長筒状に形成された箸袋本体 12 の一方端部が糊付けなどにより貼り合わせられて閉塞され、他方端部に箸 1 を挿入するための開口部 13 が形成されることで、図 1 に示すような、箸袋 10 が形成される。

30

【0027】

以上のように、本実施形態の箸袋 10 では、使用者が起立片 14 を箸袋本体 12 の一方面 12 a から離隔するように折り曲げるといった簡単な操作によって起立片 14 を箸袋本体 12 に対して立設することができ、その起立片 14 に箸 1 の先端部を置くことで箸置きとして利用することができる。

【0028】

しかも、箸置きとして利用する前の箸袋 10 では、起立片 14 を箸袋本体 12 に沿わせておくことができるため、箸袋 10 を偏平形状の状態で搬送することができ、搬送効率に優れるとともに取り扱いやすい。

40

【0029】

また、起立片 14 は先端側の幅方向中央部に境界線 15 に向けて窪む凹部 16 が設けられているため、凹部 16 に箸 1 の先端部を置くことにより箸 1 を起立片 14 上に安定して保持することができる。

【0030】

さらに、起立片 14 の表面 14 a には、文字やイラストや写真などが表示されており、箸袋 10 をテーブルなどに置いて箸置きとして利用する時に、起立片 14 がテーブル面に対して立設されることとなるため、箸 1 を使用する者やその周りの者に起立片 14 に表された表示内容を効果的に伝達することができる。

【0031】

50

なお、本実施形態では、箸袋本体 1 2 と起立片 1 4 とを一体に設けたが、本考案はこれに限定されず、箸袋本体 1 2 の一方向 1 2 a に別部材からなる起立片 1 4 を貼り付け固定してもよい。

【 0 0 3 2 】

また、本実施形態では、起立片 1 4 の表面 1 4 a を文字やイラストや写真などが表示された表示面としたが、例えば、起立片 1 4 の裏面、あるいは表面及び裏面の両面を表示面としてもよい。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 3 】

【図 1】本考案の一実施形態に係る箸袋の斜視図である。

10

【図 2】本考案の一実施形態に係る箸袋の斜視図である。

【図 3】本考案の一実施形態に係る箸袋を箸置きとして使用中の状態を示す斜視図である。

【図 4】本考案の一実施形態に係る箸袋の展開図である。

【符号の説明】

【 0 0 3 4 】

- 1 ... 箸
- 1 0 ... 箸袋
- 1 1 ... 貼り合わせ部
- 1 2 ... 箸袋本体
- 1 3 ... 開口部
- 1 4 ... 起立片
- 1 5 ... 境界線
- 1 6 ... 凹部
- 1 7 ... 折り返し線
- A ... 挿入方向

20

